



やましん

中小企業景況レポート

山梨信用金庫 経営戦略部
〒400-0032 甲府市中央 1-12-36
TEL 055-225-0213
ホームページアドレス
<http://www.yamasin.jp/>

2019.1.16 発行

■ 調査要領 ■

1. 調査対象
当金庫営業エリア内の取引先中小企業 120社
2. 調査時期・期間
調査時期：2018年12月3日～7日
調査期間：今期実績 2018年10月～12月
来期見通し 2019年1月～3月
3. 調査方法
当金庫職員による訪問聞き取り調査
4. 分析方法
DIを中心に分析

■ 調査対象と回答状況 ■

業種	企業数	回答数	回答率
製造業	31	29	93.5%
卸売業	15	13	86.6%
小売業	15	15	100%
サービス業	28	27	96.4%
建設業	23	22	95.6%
不動産業	8	8	100%
合計	120	114	95.0%

※ 国中地区 67社、東部地区 30社、相模原市周辺地区 17社

※ DI (Diffusion Index) とは

各質問事項で「良い(増加)」とした企業割合－「悪い(減少)」とした企業割合の構成比との差(判断DI)による分析です。
例えば、回答が以下のような場合のDIの算出方法は、次のとおりです。

(例)「良い・やや良い」の回答が50%、「変わらず」の回答が30%、「悪い・やや悪い」の回答が20%の場合

DIは50「良い・やや良い」－20「悪い・やや悪い」＝+30となります。DI値が高いほど景気が良いことを示しています。

業況判断DI

業種	前期	今期実績			来期見通し		
		良い	悪い	DI	良い	悪い	DI
総合	2.6	28.0	21.0	7.0	19.2	26.3	▲7.1
製造業	▲6.6	34.4	20.6	13.8	20.6	27.5	▲6.9
卸売業	7.7	30.7	23.0	7.7	15.3	30.7	▲15.4
小売業	6.7	33.3	26.6	6.7	33.3	13.3	20.0
サービス業	▲3.6	14.8	22.2	▲7.4	14.8	25.9	▲11.1
建設業	17.4	36.3	13.6	22.7	18.1	22.7	▲4.6
不動産業	0.0	12.5	25.0	▲12.5	12.5	50.0	▲37.5

業種別景気天気図

業種	前期	今期	見通し
総合			
製造業			
卸売業			
小売業			
サービス業			
建設業			
不動産業			

※本レポートは、標記時点における情報提供を目的としています。また、掲載資料は、正確性・完全性を保証するものではありません。

31以上	11~30	10~▲10	▲11~▲30	▲30以上

概況

<業況・売上・収益>

今期（10～12月）のD Iをみると、業況判断D I（「良い」－「悪い」）は、前期（7～9月）の2.6から7.0と4.4ポイント改善（前年同期比0.2ポイント改善）となりました。売上D I（「増加」－「減少」）は、14.5から7.9と同6.6ポイント悪化（前年同期比1.6ポイント悪化）、収益D I（「増加」－「減少」）は8.5から7.9と同0.6ポイント悪化（前年同期比9.6ポイント改善）となりました。

業況D Iについては、サービス業、不動産業で悪化したものの、製造業、建設業で改善したことが要因となっています。

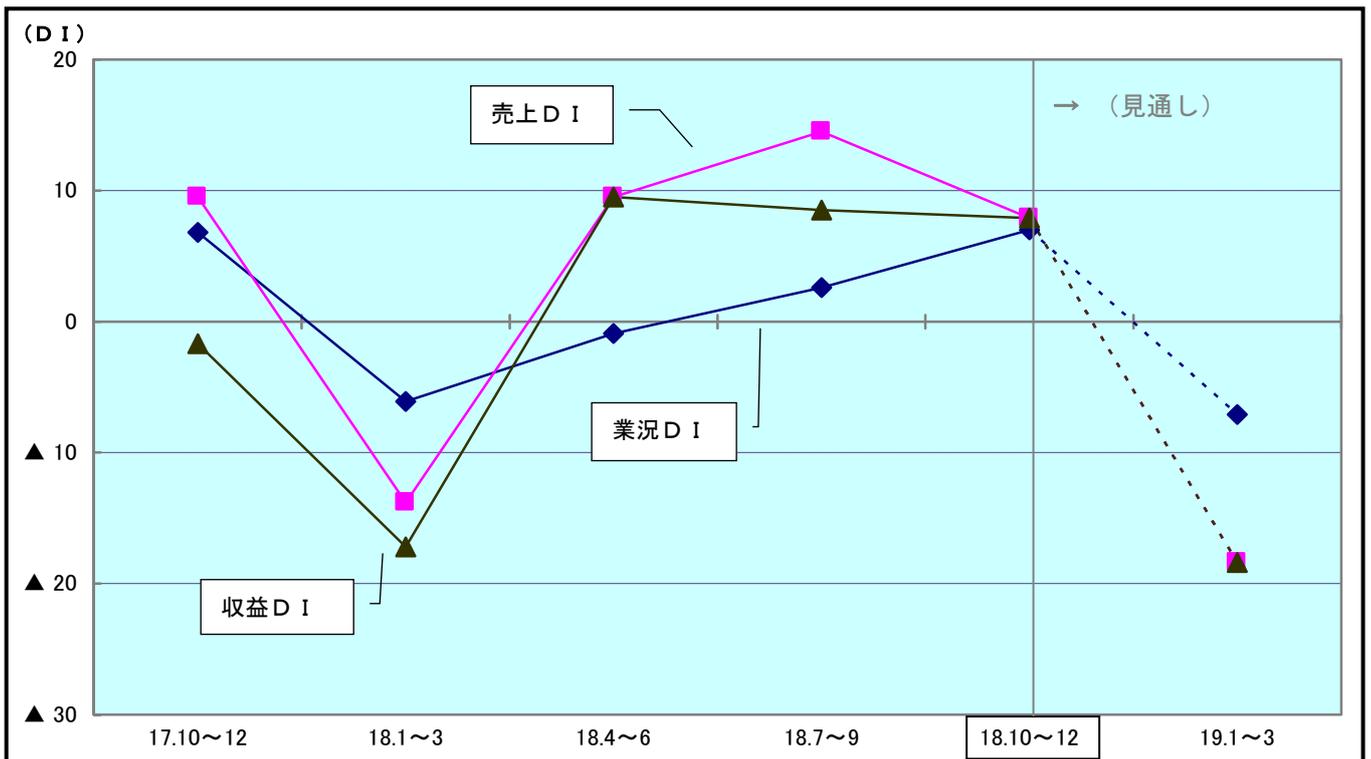
売上D Iについては、卸売業、建設業で改善したものの、製造業、小売業、サービス業、不動産業で悪化したことが要因となっています。

収益D Iについては、製造業、建設業で改善したものの、卸売業、小売業、サービス業、不動産業で悪化したことが要因となっています。

全業種総合の来期見通し（1～3月）をみると、業況判断D Iが7.0から▲7.1と今期実績比14.1ポイント悪化が見込まれています。また、売上D Iは7.9から▲18.4と同26.3ポイント悪化、収益D Iは7.9から▲18.4と同26.3ポイント悪化が見込まれています。業種別の業況判断D Iは、小売業で改善が見込まれているものの、その他の業種で悪化が見込まれています。

■ 業況・売上・収益D Iの時系列推移

	17.10～12	18.1～3	18.4～6	18.7～9	18.10～12	19.1～3 見通し
業況 D I	6.8	▲6.1	▲0.9	2.6	7.0	▲7.1
売上 D I	9.5	▲13.8	9.5	14.5	7.9	▲18.4
収益 D I	▲1.7	▲17.2	9.5	8.5	7.9	▲18.4



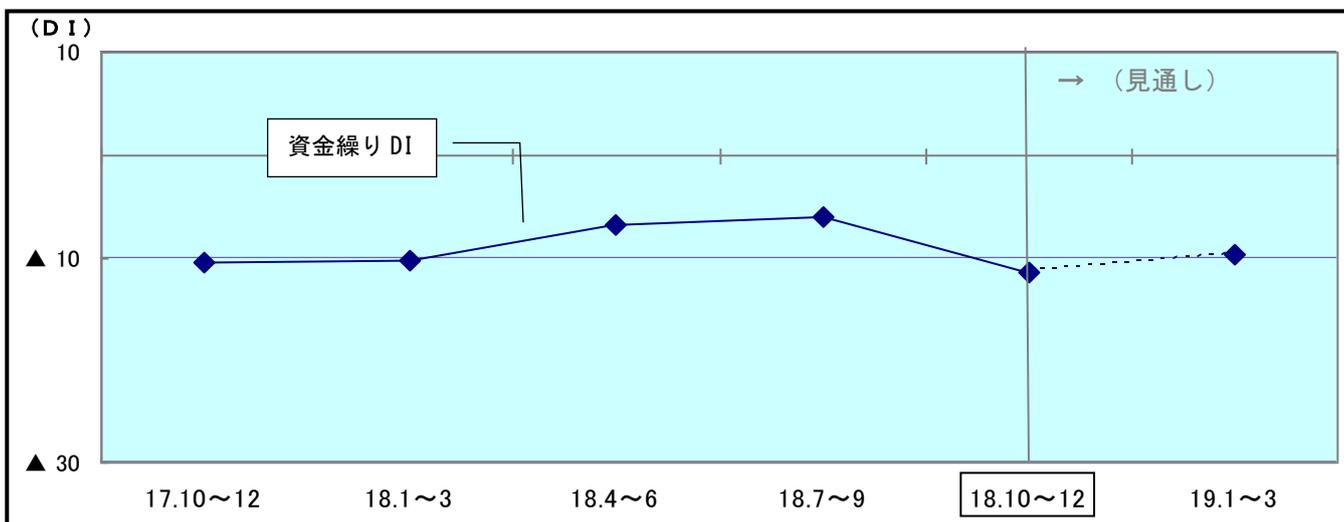
<資金繰り>

資金繰りDI（「楽」－「苦しい」）は▲11.4と、前期比5.4ポイントの悪化となりました（前年同期比1.0ポイント悪化）。

また、来期の資金繰りDIは▲9.7と、今期実績比1.7ポイントの改善が見込まれています。

■ 資金繰りDIの時系列推移

	17.10~12	18.1~3	18.4~6	18.7~9	18.10~12	19.1~3 見通し
資金繰りDI	▲10.4	▲10.3	▲6.9	▲6.0	▲11.4	▲9.7



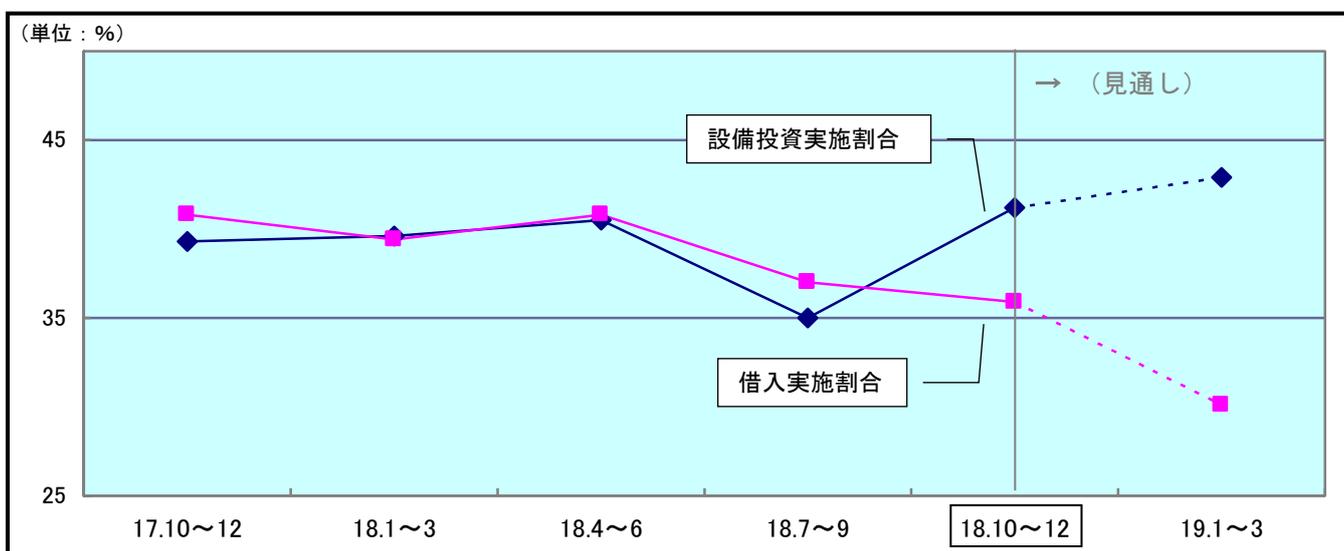
<設備投資・借入動向>

不動産業を除いた設備投資実施企業割合は41.2%と、前期比6.2ポイント上昇しています（前年同期比1.9ポイント上昇）。また、来期の設備投資実施予定企業割合は42.9%と、今期実績比1.7ポイントの上昇が見込まれています。

全業種総合の借入実施企業割合は35.9%と、前期比1.1ポイント低下しています（前年同期比4.9ポイント低下）。また、来期の借入実施予定企業割合は30.1%と、今期実績比5.8ポイントの低下が見込まれています。

■ 設備投資・借入実施動向の時系列推移

	17.10~12	18.1~3	18.4~6	18.7~9	18.10~12	19.1~3 見通し
設備投資実施割合	39.3%	39.6%	40.5%	35.0%	41.2%	42.9%
借入実施割合	40.8%	39.4%	40.8%	37.0%	35.9%	30.1%



【製造業】

【今期】売上D Iは前期（7～9月）比で悪化したものの、その他のD Iで改善となり、すべてのD Iにおいてプラス水準となりました。経営上の問題点としては前回調査同様「人手不足」が上位となっており、人材の確保や定着化が難航していることが窺えます。

【来期】すべてのD Iにおいて今期実績比で悪化が見込まれています。当面の重点経営施策としては、毎回多くの企業が掲げている「人手の確保」、「販路の拡大」に加えて「新製品・技術の開発」を掲げる企業もあり、他社との差別化を図る動きもあります。

■経営上の問題点（）内は前回順位

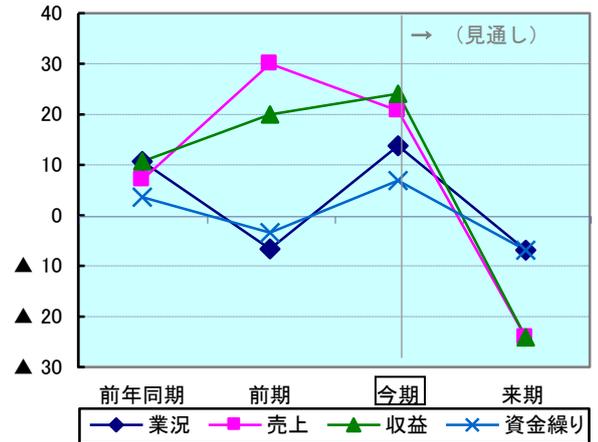
1	人手不足(1)	37.9%
2	売上の停滞・減少(2)	27.6%

■当面の重点経営施策

1	人材の確保(1)	55.2%
2	販路の拡大(1)	44.8%
3	新製品・技術の開発(5)	37.9%

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	10.7	▲6.6	13.8	▲6.9
売上	7.1	30.0	20.7	▲24.1
収益	10.7	20.0	24.1	▲24.1
資金繰り	3.6	▲3.4	6.9	▲6.9



【卸売業】

【今期】売上D Iは前期（7～9月）比で改善したものの、収益、資金繰りD Iで悪化となりました。経営上の問題点としては前回調査同様「売上の停滞・減少」、「同業者間の競争激化」を挙げる企業が多く、売上、収益ともに苦慮している企業が多いことが窺えます。

【来期】資金繰りD Iは今期実績比で改善が見込まれるものの、その他のD Iで悪化が見込まれています。当面の重点経営施策としては売上の増強のため、「販路の拡大」、「品揃えの充実」を掲げる企業が多く、また、収益の確保のため、「経費の削減」を掲げる企業も多い結果となりました。

■経営上の問題点（）内は前回順位

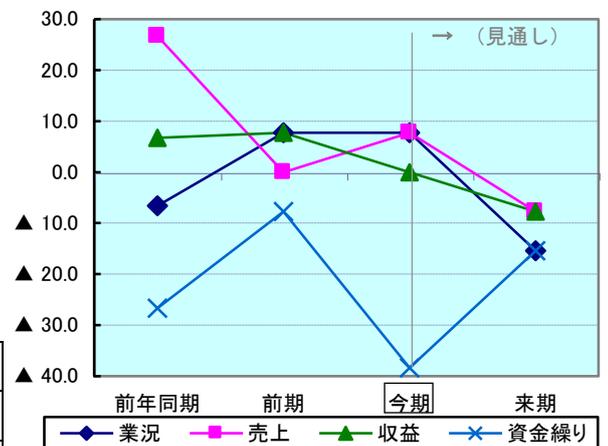
1	売上の停滞・減少(2)	53.8%
2	同業者間の競争激化(1)	46.2%
3	利幅の縮小(3)	38.5%

■当面の重点経営施策

1	販路の拡大(1)	69.2%
2	経費の削減(2)	46.2%
3	品揃えの充実(3)	30.8%
	情報力の強化(3)	

■主要D Iの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	▲6.6	7.7	7.7	▲15.4
売上	26.7	0.0	7.7	▲7.7
収益	6.7	7.7	0.0	▲7.7
資金繰り	▲26.7	▲7.7	▲38.4	▲15.4



【小売業】

【今期】業況DIは前期（7～9月）比で横ばい、売上、収益、資金繰りDIは悪化となりました。「人手不足」や「売上の停滞・減少」を問題点として挙げる企業が多いなか、今回調査より「仕入先からの値上げ要請」を挙げる企業もあり、収益に影響を及ぼすことが懸念されます。

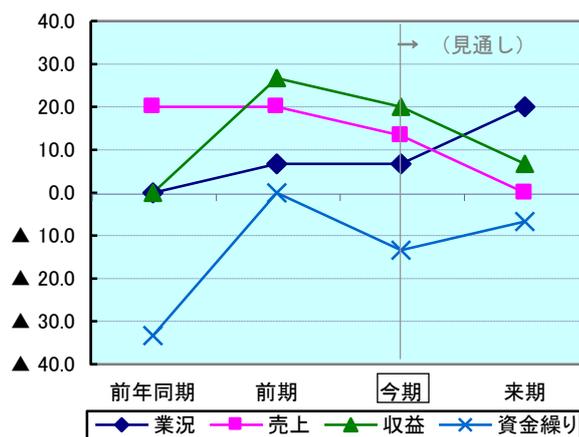
【来期】売上、収益DIは今期実績比で悪化が見込まれているものの、業況、資金繰りDIは改善が見込まれています。当面の重点経営施策としては売上の増強のため、「宣伝・広告の強化」、「仕入先の開拓・選別」を掲げる企業が多い結果となりました。

■経営上の問題点（）は前回順位 ■当面の重点経営施策

1	人手不足(2)	40.0%	1	経費の削減(1)	40.0%
2	売上の停滞・減少(1)	26.7%	1	宣伝・広告の強化(4)	
	仕入先からの値上げ要請(6)		3	仕入先の開拓・選別(4)	33.3%

■主要DIの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	0.0	6.7	6.7	20.0
売上	20.0	20.0	13.3	0.0
収益	0.0	26.7	20.0	6.7
資金繰り	▲33.3	0.0	▲13.4	▲6.7



【サービス業】

【今期】すべてのDIにおいて、前期（7～9月）比で悪化となりました。経営上の問題点で前回調査同様に「人手不足」や「売上の停滞・減少」等を問題点として挙げる企業が多く、業界全体の厳しさが増していることが窺えます。

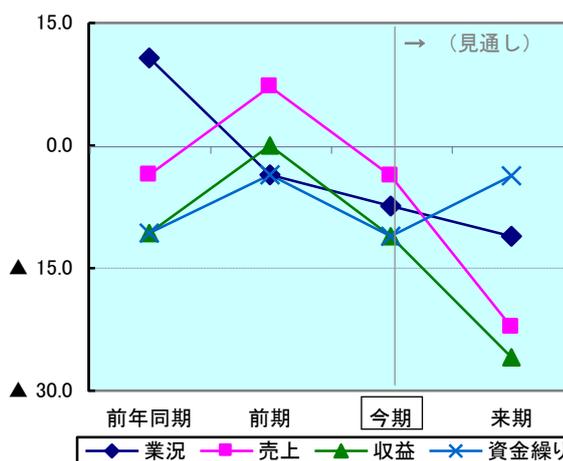
【来期】すべてのDIにおいて今期実績比で悪化が見込まれています。来期の業界の景況感は厳しい状況が見込まれており、当面の重点経営施策としては人手不足解消に向けて「人材の確保」や売上収益を増強するため、「販路の拡大」、「経費の削減」を掲げる企業が多い結果となりました。

■経営上の問題点（）は前回順位 ■当面の重点経営施策

1	人手不足(1)	59.3%	1	人材の確保(1)	51.9%
2	売上の停滞・減少(2)	44.4%	2	経費の削減(3)	40.7%
3	材料価格の上昇(3)	29.6%	3	販路の拡大(1)	37.0%

■主要DIの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	10.7	▲3.6	▲7.4	▲11.1
売上	▲3.6	7.2	▲3.7	▲22.2
収益	▲10.7	0.0	▲11.1	▲25.9
資金繰り	▲10.7	▲3.6	▲11.1	▲3.7



【建設業】

【今期】資金繰りDIは前期（7～9月）比で悪化したものの、その他のDIで改善となりました。前回調査に引き続き、業況が好調となっているものの、「人手不足」や「下請の確保難」等の問題を抱えている企業が多く窺えます。

【来期】資金繰りDIは今期実績比で改善が見込まれているものの、その他のDIで悪化が見込まれています。当面の重点経営施策としては売上、収益を増強するため、「技術力の強化」、「人材の確保」を掲げる企業が多い結果となりました。

■経営上の問題点（）は前回順位

1	人手不足(1)	45.5%
2	下請の確保難(2)	27.3%
	売上の停滞・減少(5)	
	材料価格の上昇(7)	

■当面の重点経営施策

1	技術力の強化(2)	59.1%
2	人材の確保(1)	40.9%
3	販路の拡大(3)	36.4%

【不動産業】

【今期】すべてのDIにおいて、前期（7～9月）比で悪化となりました。「利幅の縮小」、「商品物件の不足・高騰」等を多くの企業が経営上の問題点として挙げており、業界全体での厳しさが増していることが窺えます。

【来期】売上DIは今期実績比で横ばいが見込まれているものの、その他のDIで悪化が見込まれています。来期の業界の景況感は厳しい状況が見込まれており、当面の重点経営施策としては売上、収益の増強するため、「提携先の開拓」、「経費の削減」を掲げる企業が多い結果となりました。

■経営上の問題点（）は前回順位

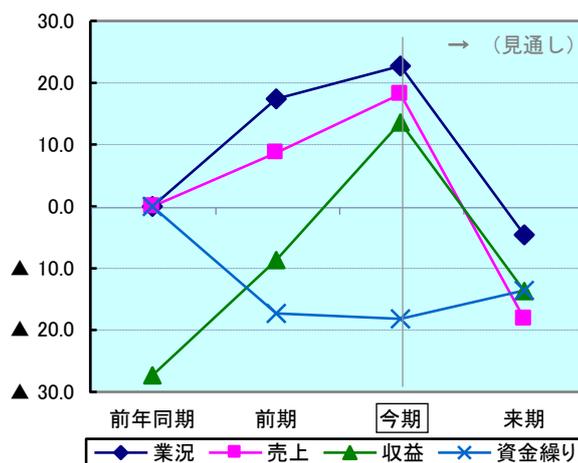
1	利幅の縮小(7)	50.0%
2	売上の停滞・減少(1)	37.5%
	同業者間の競争激化(3)	
	商品物件の不足(1)	
	商品物件の高騰(10)	
	人件費の増加(3)	

■当面の重点経営施策

1	提携先の開拓(9)	50.0%
	経費の削減(4)	
2	販路の拡大(2)	37.5%
	情報力の強化(1)	

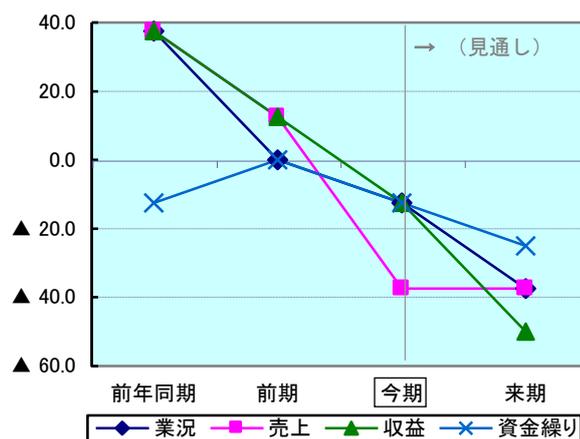
■主要DIの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	0.0	17.4	22.7	▲4.6
売上	0.0	8.7	18.2	▲18.2
収益	▲27.3	▲8.7	13.6	▲13.7
資金繰り	0.0	▲17.3	▲18.2	▲13.6



■主要DIの推移

	前年同期	前期	今期	来期
業況	37.5	0.0	▲12.5	▲37.5
売上	37.5	12.5	▲37.5	▲37.5
収益	37.5	12.5	▲12.5	▲50.0
資金繰り	▲12.5	0.0	▲12.5	▲25.0



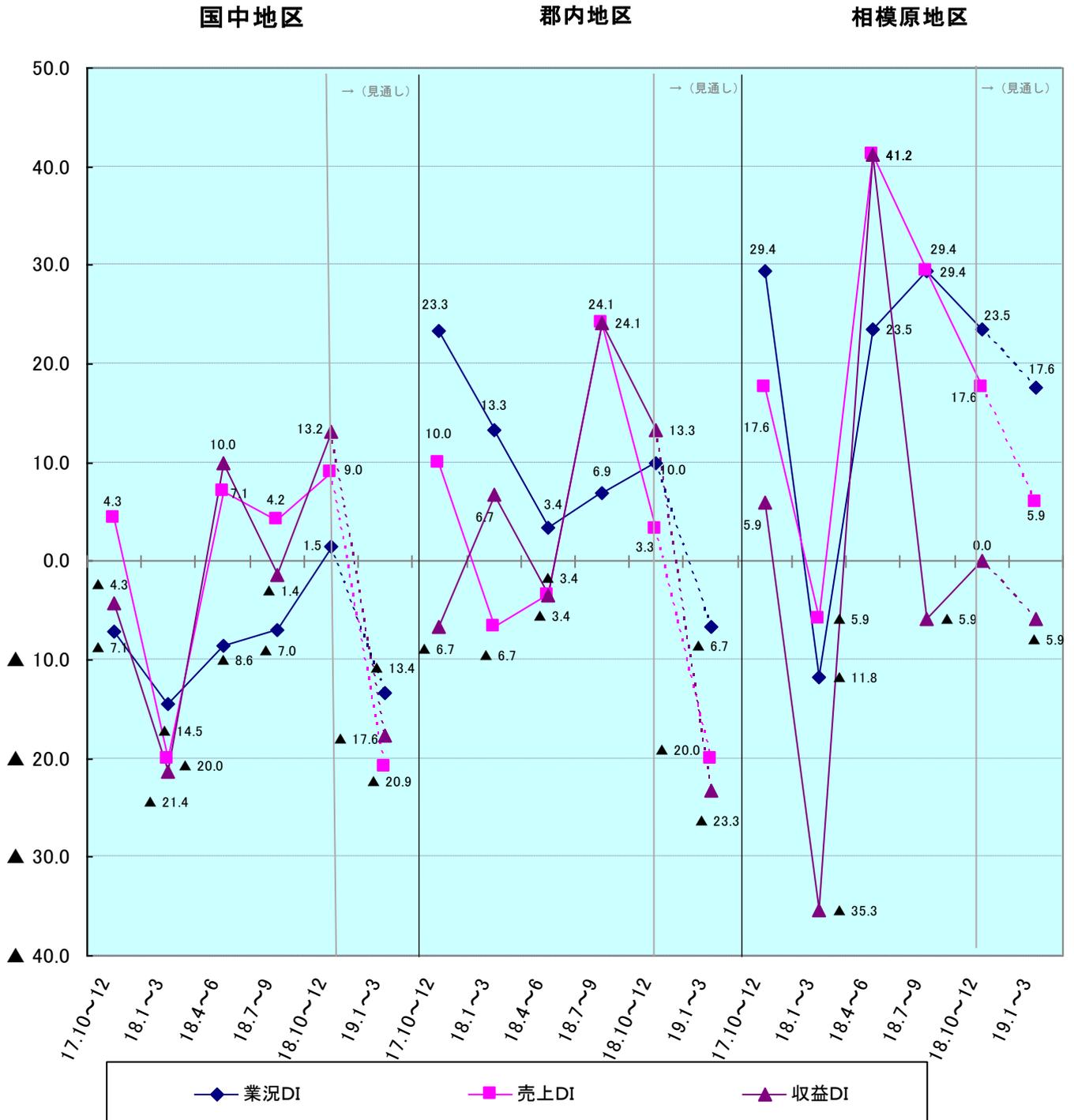
<地区別D I の状況>

国中地区においては、すべてのD Iで前期（7～9月）比改善となりました。

郡内地区においては、売上、収益D Iで悪化したものの、業況D Iで6.9から10.0と同3.1ポイントの改善となりました。

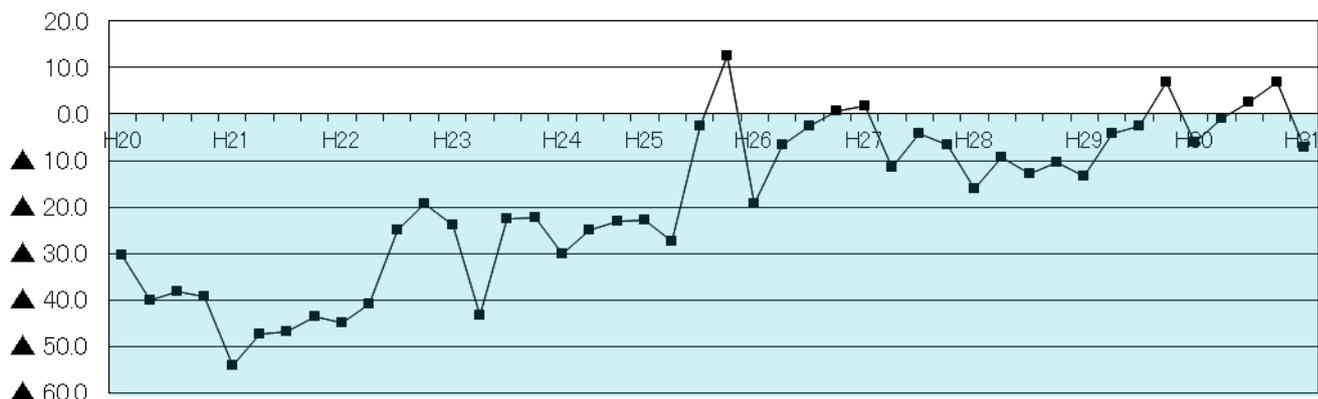
相模原地区においては、業況、売上D Iで悪化したものの、収益D Iが▲5.9から0.0と同5.9ポイントの改善となりました。

来期の見通しについては、国中地区、郡内地区、相模原地区のすべてのD Iで悪化が見込まれています。

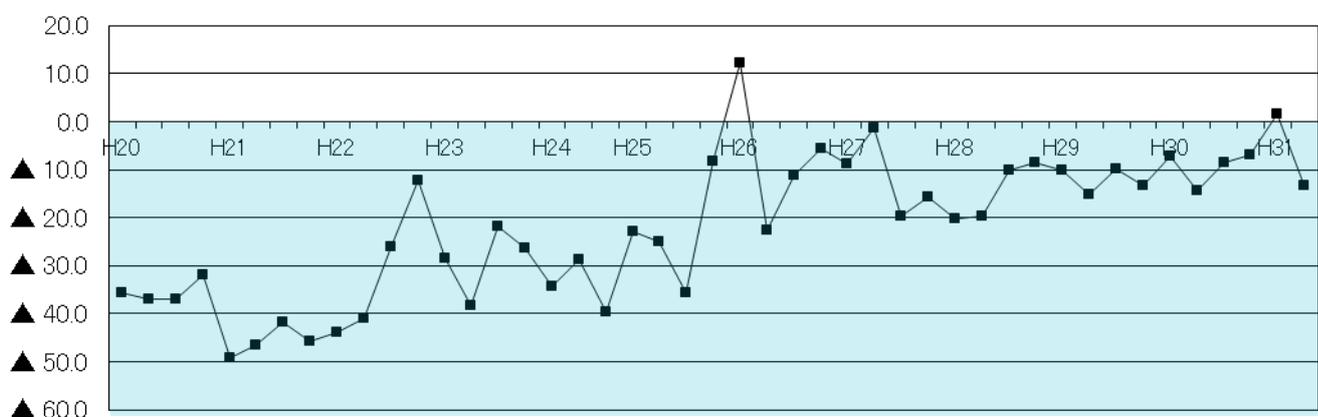


<業況DIの推移状況>

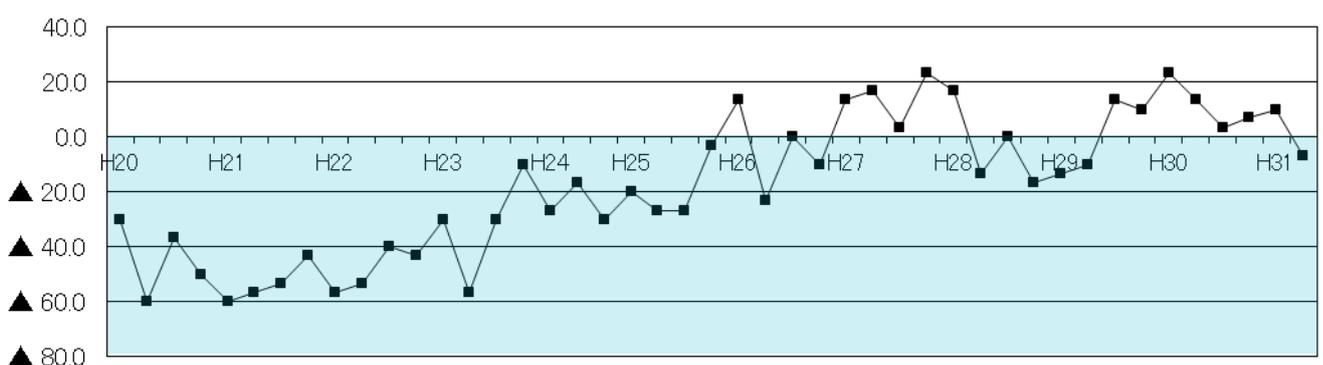
【総合DIの推移】



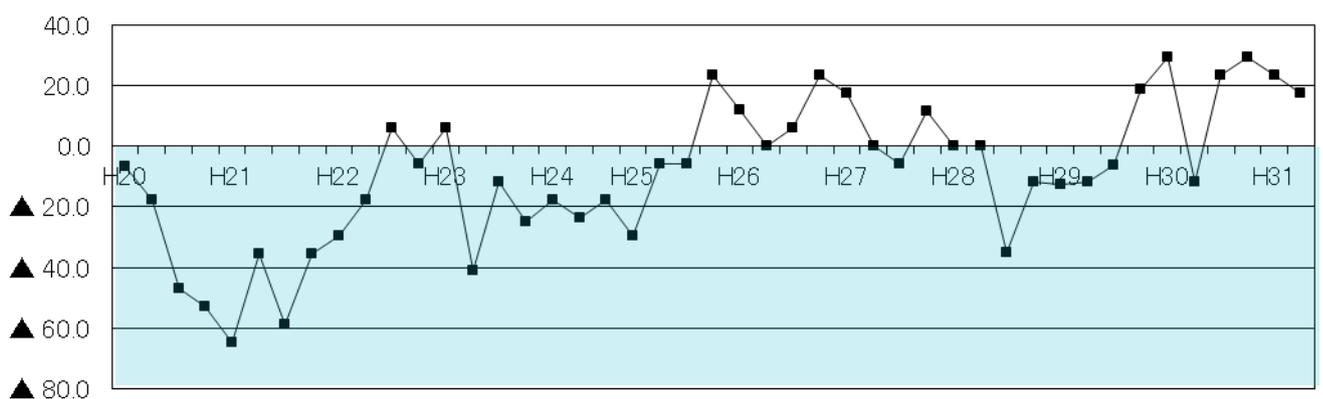
【国中地区DIの推移】



【郡内地区DIの推移】



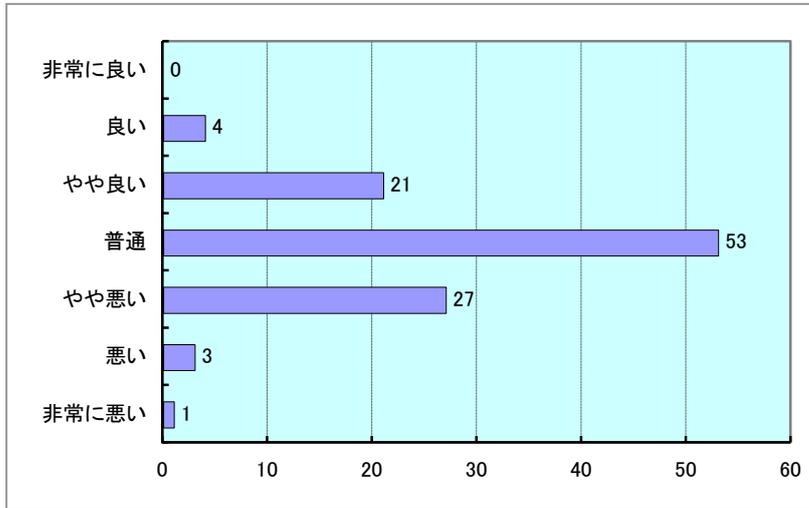
【相模原地区DIの推移】



◆貴社では、2019年の日本の景気をどのように見通していますか。また、自社の業績をどのように見通していますか。(回答企業数：109社)

【2019年の国内景気見通し】

(単位：社)

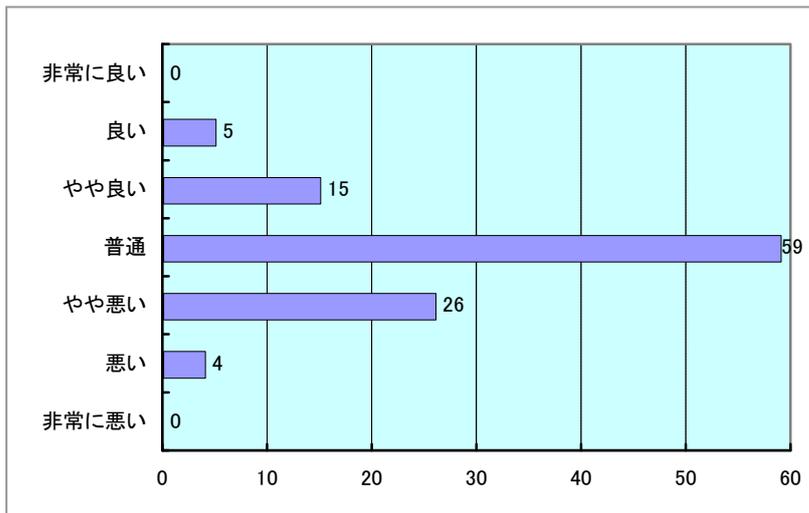


(単位：%)

	2019年 見通し	2018年 見通し	2017年 見通し
良い(A)	23.0	18.9	14.6
非常に良い	0.0	0.0	0.0
良い	3.7	4.3	3.4
やや良い	19.3	14.6	11.2
普通	48.6	54.3	37.0
悪い(B)	28.5	26.7	47.3
やや悪い	24.8	18.1	37.9
悪い	2.8	8.6	9.4
非常に悪い	0.9	0.0	0.0
DI(A) - (B)	▲ 5.5	▲ 7.8	▲ 32.7

【2019年の自社の業況見通し】

(単位：社)



(単位：%)

	2019年 見通し	2018年 見通し	2017年 見通し
良い(A)	18.4	19.9	17.2
非常に良い	0.0	0.9	0.8
良い	4.6	5.2	1.7
やや良い	13.8	13.8	14.7
普通	54.1	56.8	41.4
悪い(B)	27.6	23.3	41.4
やや悪い	23.9	19.0	34.5
悪い	3.7	4.3	6.9
非常に悪い	0.0	0.0	0.0
DI(A) - (B)	▲ 9.2	▲ 3.4	▲ 24.2

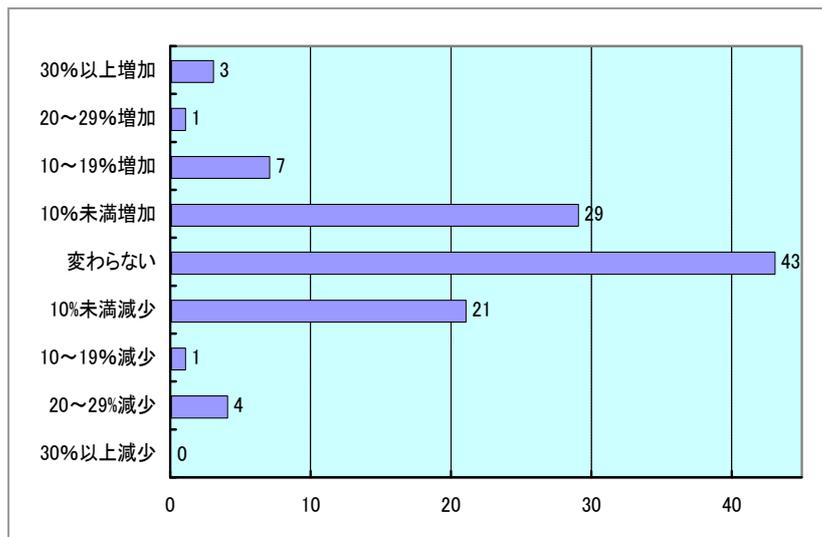
2019年の日本の景気見通しについては、『良い』（「非常に良い」・「良い」・「やや良い」の合計）との回答が23.0%、『悪い』（「やや悪い」・「悪い」・「非常に悪い」の合計）との回答が28.5%となり、「良い（A）－悪い（B）」は▲5.5となりました。1年前の調査比（No. 040）で2.3ポイント改善しており、2年前の調査比（No. 036）で27.2ポイント改善しています。

2019年の自社の業況（景気）の見通しについては、『良い』（「非常に良い」・「良い」・「やや良い」の合計）との回答が18.4%、『悪い』（「やや悪い」・「悪い」・「非常に悪い」の合計）との回答が27.6%となり、「良い（A）－悪い（B）」は▲9.2となりました。1年前の調査比で5.8ポイント悪化しており、2年前の調査比で15.0ポイント改善しています。

1年前の調査と比較して日本の景気見通しは改善が見られます。2019年は改元やGWの10連休等があり、個人消費の増加等が予想されるなか、景気の好循環が期待できます。しかしながら、企業個々の業績の見通しは2年前の調査比では改善しているものの、1年前の調査比で悪化しています。また、業種別にみると、製造業、サービス業、建設業、不動産業で厳しい見通しを持つ経営者が多く見られました。

◆2019年において貴社の売上額の伸び率は、2018年に比べておおよそどのくらいになると見通していますか。(回答企業数：109社)

(単位：社)



(単位：%)

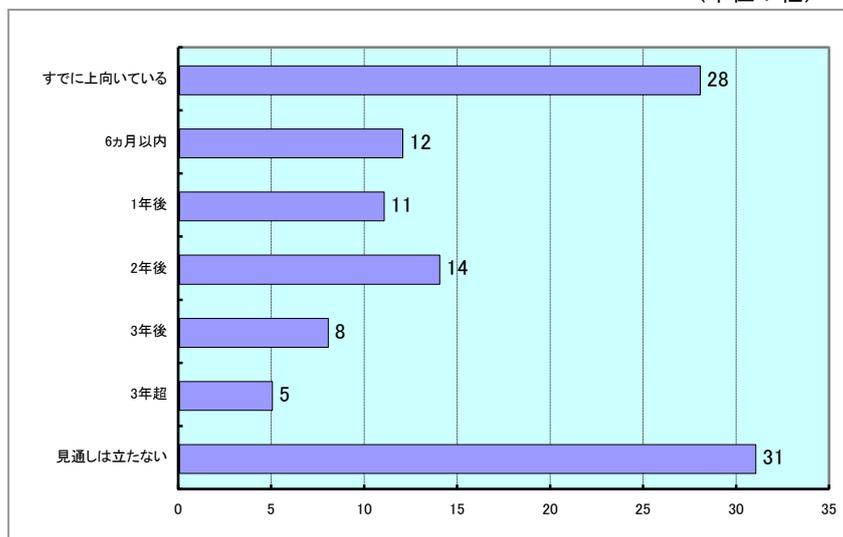
	2019年 見通し	2018年 見通し	2017年 見通し
増加(A)	36.7	43.2	26.7
30%以上	2.8	0.9	0.0
20~29%	0.9	2.6	0.0
10~19%	6.4	12.1	6.9
10%未満	26.6	27.6	19.8
変わらない	39.4	34.5	41.4
減少(B)	23.9	22.4	31.9
10%未満	19.3	15.5	19.8
10~19%	0.9	6.0	9.5
20~29%	3.7	0.9	1.7
30%以上	0.0	0.0	0.9
DI(A) - (B)	12.8	20.8	▲ 5.2

2019年の自社の売上額の伸び率の見通しは、「増加(A)」が36.7%、「減少(B)」が23.9%となり、「増加(A) - 減少(B)」は12.8となりました。1年前の調査比で8.0ポイント悪化しているものの、2年前の調査比で18.0ポイント改善しています。

また、「変わらない」「10%未満の増加」と回答した企業が合わせて72社と全体の6割以上を占めております。2019年においては、多くの企業で売上が堅調に推移する見通しをしていることが窺える結果となりました。

◆貴社では、自社の業況が上向き転換点をいつ頃になると見通していますか。(回答企業数：109社)

(単位：社)



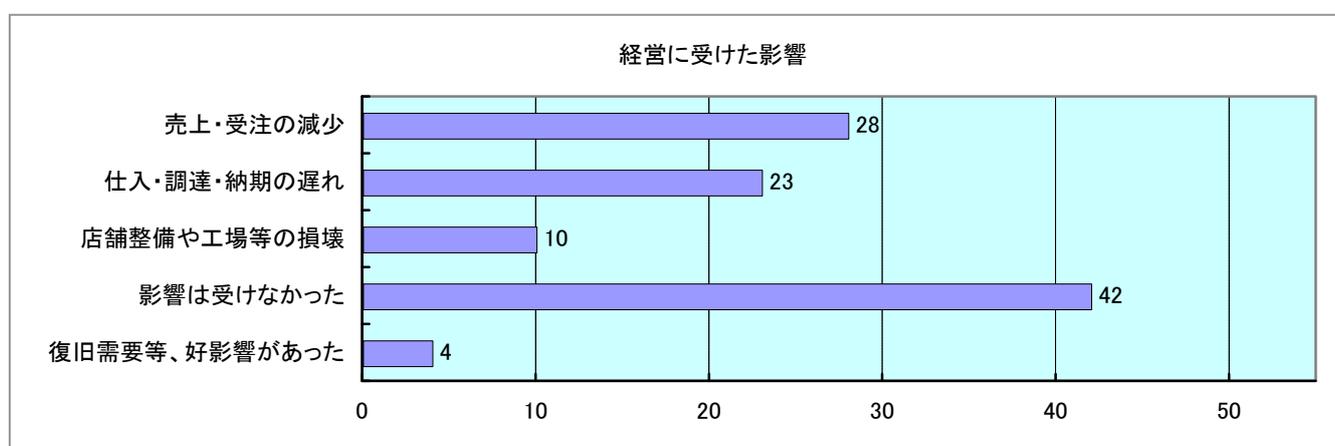
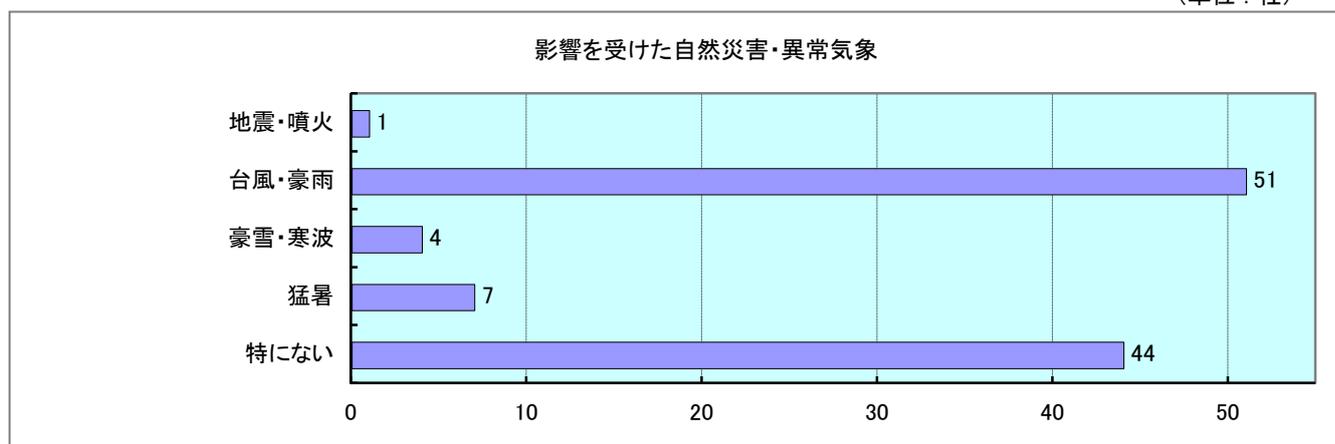
	2019年 見通し	2018年 見通し	2017年 見通し
すでに上向き	25.7	21.9	15.7
6か月以内	11.0	12.3	8.7
1年後	10.1	23.7	19.1
2年後	12.8	8.8	17.4
3年後	7.3	5.3	7.0
3年超	4.6	9.6	7.0
見通しは立たない	28.4	18.4	25.2

業況が上向き転換点となる時期は、「すでに上向いている」、「6か月以内」、「1年後」のいずれかを回答した企業は46.8%となり、1年前の調査比で11.1ポイント低下しています。業種別に見ると、製造業・小売業・サービス業の5割以上の企業で1年以内に転換点を迎えるとの回答がありました。1年以内に業況が上向き転換点を迎える見通しをしている企業が多く窺える結果となりました。

また、「業況改善の見通しは立たない」と回答した企業が28.4%となり、1年前の調査比で10.0ポイント悪化し、2年前の調査比で3.2ポイント悪化しています。一部の企業では業況の見通しに不透明感を感じていることが窺える結果となりました。

◆2018 年は、地震や台風などの自然災害が相次いだほか、豪雪・寒波や豪雨、猛暑といった異常気象も各地で発生しました。2018 年の貴社の経営について、影響を受けた自然災害や異常気象はありますか。(回答企業数：107 社)

(単位：社)



2018 年の経営上で影響を受けた自然災害や異常気象は「台風・豪雨」と回答した企業が最も多く、51 社 (47.7%) となり、次いで「特にない」と回答した企業が 44 社 (41.1%) となりました。

また、自然災害等で経営に受けた影響については「影響は受けなかった」と回答した企業が最も多く 42 社 (39.3%)、次いで「売上・受注の減少」と回答した企業が 28 社 (26.2%) となりました。全体的にみると、何かしらの被害を受けた企業は 61 社 (57.0%) となり、自然災害等での被害の影響が大きかったことが窺えます。また、業種別でみると小売業、卸売業、不動産業では 7 割以上の企業が何かしらの被害を受けたとの結果になりました。

2018 年の漢字が「災」と表されたように自然災害等が多い年でありましたが、2019 年以降も自然災害等の影響が懸念されます。

調査員のコメント

製造業

- 台風の影響で事務所等に被害を受けたが、それよりも仕入に影響を受けたことが大きい。材料価格が高止まっているため、価格転嫁したくてもできない状況であり、収益も悪化している。新商品の開発が急務である。(菓子製造業)
- 厳しい状況は続いているが、フェア等の開催により売上は増加している。今後は創業 70 周年の企画商品や海外生産の低価格商品の販売を行い、更なる売上増加に努めていく方針(貴金属製造業)

卸売業

- 展示会が行われ、展示会の売上は例年並みに推移したが、年間通しての売上は減少している。売上増強のため、新規開拓に取り組んでいる。(眼鏡全般卸業)
- 販売価格を上げたことにより、粗利は上昇しているが、仕入先からの値上げ要請もあることから利益確保が課題である。(水産物卸業)

小売業

- ネット販売の普及により厳しい状況ではあるが、年齢層が少し高めのため、大きなダメージになっていない。(婦人服販売業)

サービス業

- 同業者間の低価格での競争が激化しており、売上、利益は減少傾向にあるが、現在販路拡大や経費削減を積極的に行っている。(宿泊業)
- 最低賃金の増加、人手不足などに対応するため、外国人実習生の受け入れを始めた。母国での教育もしっかりしており、今後も増員を計画している。(ビルメンテナンス業)

建設業

- 公共工事については、オリンピック開催前年の 2019 年までは、順調に推移する見通しであるが、先行きは不安材料が多く、価格の高騰、人員の確保が厳しくなっている。(舗装工事業)

不動産業

- 増税前の駆け込み需要は多く、大手企業及び同業者間の競争が激化している状況であり、他社とどう差別化を図るかが課題である。(不動産売買・賃貸業)

☆山梨県、神奈川県(相模原地区)トピックス(1~3月期)

1月

河口湖冬花火(開催日:1月12日~2月17日、2月23日)

⇒1月12日から2月17日までの土曜・日曜と2月23日(富士山の日)の計13回、澄み切った冬の夜空を彩る打ち上げ花火「河口湖冬花火」が行われます。打ち上げ時間は午後8時から午後8時20分。冬の富士河口湖町では、様々なイベントが開催され、ホテルや旅館で冷えた身体をゆったり温泉で温めるのもおすすめです。

【交通アクセス】会場:河口湖畔大池公園(南都留郡富士河口湖町船津6713-2)
中央自動車道「河口湖IC」より約20分

2月

塩澤寺 厄除地蔵尊大祭(開催日:2月13日正午~2月14日正午)

⇒塩澤寺の石造地蔵菩薩像が2月13日正午から14日正午にかけての24時間は耳を開き、善男善女の願いを聞き入れ、厄難を逃れることができると言われることから、大祭当日は全国各地から多くの参拝者で賑わいます。

【交通アクセス】会場:塩澤寺(甲府市湯村3-17-2)
中央自動車道「甲府昭和IC」より約20分

甲斐市梅のクロスカントリー大会(開催日:2月24日)

⇒早春の梅が咲き誇るコースで爽やかな春を感じられます。レース後には、豚汁の無料サービスやお子様対象のプレゼントの配布を企画しており、また、参加者には市内温泉(3カ所)の入浴券を配布いたします。

【交通アクセス】会場:敷島総合文化会館前広場(甲斐市島上条1020)
中央自動車道「双葉スマートIC」より5分

3月

灯りの街「小原宿」ライトアップ開催(開催日:3月24日)

⇒江戸時代の宿場町の面影を残し、神奈川県で唯一残されている本陣や街道沿いに、数々の灯りを点し暖かく幻想的に照らします。

【交通アクセス】会場:小原宿本陣(相模原市緑区小原698-1)
中央本線「相模湖駅」より徒歩20分
中央自動車道「相模湖IC」より約2分

編集後記

平成 31 年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

このたびの中小企業景気動向調査においては、お忙しい中、ご協力賜りまして誠にありがとうございました。

今回の調査では、業況判断 D I が 7.0 と前期比 4.4 ポイント改善となりました。また、来期の見通しについては、▲7.1 と今期実績比 14.1 ポイント悪化が見込まれています。

今回の特別調査では「2019 年の経営見通し」と題して調査をいたしました。去年の調査の見通しから比較してみると、日本の景気は改善の見通しとなっているものの、企業の業績では悪化の見通しとなっています。2019 年は「平成」最後の年であり、新たなスタートの年でもあります。2020 年には東京オリンピックも控えているなか、日本経済は好転していくことが期待できます。

当金庫におきましても、今後とも地域の皆さまの助力となれるようにお客様それぞれのニーズに応じた商品・サービス提供や各種支援制度等の情報提供にも一層、努めてまいります。

また、山梨県、神奈川県（相模原地区）の情報やイベント等を掲載しております。イベント等につきましては、近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

その他、地域の事業者が抱える様々な課題に対しましても積極的にご支援していく所存ですので、お気軽に当金庫営業店または担当者までご相談ください。